



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道標



# 心に染みだ信仰の分かち合い 第1回教区フェスタ終わる



九月十七日(月)午前十時から午後三時半まで、鹿兒島カテドラル・ザビエル教会で第一回教区フェスタが開かれた。参加者は教区内のほぼ全小教区から約二百五十人。主宰の司祭評議会では開催の目的を「宣教」と「殉教」と位置付けていたが、実務を担当した教区本部の方でテーマ「宣教する教会をどう生きていますか?」を掲げ、参加者を募集した。因みにフェスタとはイタリア語で「宗教上の祭日」を意味する言葉。

## 教区の元気があちらこちらに

開会のミサは郡山司教主司式、二十数人の司祭、十人余の侍者による荘厳ミサで、教区典礼委員会の指導の下にささげられた。ミサ前に桃菌助祭からミサの意味と礼拝の精神がよく理解されるように解説が行われた。その甲斐もあって多くの人が自分の言葉で共同祈願をささげ、参列者は聖書朗読を印刷物に目をやるのではなく、耳で聞く

聖体拝領後は信仰体験発表が行われ、石田幹雄さん(川内教区)、小郷亜紀子さん(ザビエル教区)、迫田フミさん(玉里教区)、久保正子さん(小宿教区)の四人が自分の生き方の基礎となつて信仰と教会での活動とのつながりを紹介した。午後一時からのアトラクションでは、教区内で活動している公認の団体やグループがそれぞれの生い立ちや活動内容、活動状況などを詳しく、また熱を込めて発表した。そのほか歌や踊りなども披露され、参加者を十分楽しませた。参加者の一人は二時間があつという間に

- ① 愛の聖母園を支える会
- ② 夜回りの会
- ③ 燃える芝の会
- ④ ベトナム人ファミリー
- ⑤ レジオ・マリエ
- ⑥ イングリッシュスクー
- ⑦ 鹿兒島教区奄美カトリック女性連盟
- ⑧ フォコラーレ
- ⑨ フイリッピン人共同体
- ⑩ ゆらいあい
- ⑪ 鹿兒島カトリック障害者の自立を考える会
- ⑫ 鹿兒島カトリック看護協会
- ⑬ 希望の電話
- ⑭ 鹿兒島カトリック女性

- ⑮ 信徒の会
  - ⑯ 連合青年会
  - ⑰ 連合壮年会
  - ⑱ 聖アルフォンソ合唱団
- 午後三時からの聖体賛美式では、いつでも我々ともにおられるご聖体のキリストを賛美し、祝福を受け、フェスタは閉じられた。
- また、今回初めての試みとして、当日のミサの献金は全額、離島(種子島、奄美大島、徳之島、沖永良部)からの参加者に旅費として分配された。しかし、台風十一号の影響で交通が不通となり、やむなく参加者が制限されたことは残念だった。

## YET

思いきりが悪く、きつかけを失いバツの悪い思いをすることがある。小さい頃からそうだったようで、悩む割には行動に移さない情けない子だった。そしてそれは今でも続いている▼出張帰りに博多からJRを利用した。列車はこちらの予想に反してかなりの込み具合。出張が一緒になったボスとも通路を隔てて座る始末。暫くすると、席を見つけれないご婦人二人が近くに立った。二人の話から二十分ほどで下車の様子。「それならば大したことはない」と少々居心地の悪さはあるものの知らん顔を決め込んでいた▼ところが次の駅で隣の客が下車、そこへそのご婦人の一人がすぐさま着席。もう一人のために席を譲ろうかと迷っているうちに、ボスが立った。「降りられる駅までどうぞ」。ならばボスが席をとると思つたが、上司だからと席を譲るとい

の月と呼ばれています。五百年前の信者はロザリオの祈りを唱えませんでした。他のよい方法、たとえば詩編によって祈りました。しかし、ロザリオの祈りは信仰の力ある祈りです。ロザリオの信心が盛んになったのは十六世紀、異邦人のトルコ軍に対してキリスト教が得たレバントの海戦における大勝利で、これは教皇様と信者の熱心なロザリオの祈りによるものであると言われています。この勝利を記念して、一五七一年にピオ五世教皇は、ロザリオの記念日を定めました。

## 道標

### ロザリオの月に寄せて

谷山教会 W・フリチエル

ザリオの祈りを唱えることです。ロザリオの祈りは勿論、賛美と感謝の祈りですが、祈願・執り成しの祈りでもあります。自分の日常の生活において、いろいろの問題が起ころでしよう。この自分の問題を解決するために祈っても差し支えありませんが、もっとよいのは、信徒の特徴は隣人愛でありまずから、まず他者のためにロザ

で私たちの代願者と恵みの分配者であられる方だからです。聖母マリアは、神のお告げやメッセージなどすべて心に巡らして、いと聖書にありますが。ロザリオの月の祈りほどこでも唱えることができ、一連を唱えましょう。ロザリオの祈りはどこでも唱えることができ、工場へ行く途中、家にいるときにこのロザリオの祈りは簡単に唱えることができます。

「光りの玄義」を作りました。私たちが今日のロザリオの祈りを、特に世界平和のために唱えましょう。

のボスは、列車に乗れたただけでも満足と言わんばかりに、次の乗り換え駅での席の確保に張り切っていた。

趣旨とテキスト

北薩地区では昨年十二月から各教会を巡回しながら、宣教奉仕者(信徒使徒職)の養成をマリア山荘の永山幸弘神父様のご指導をいただきながら深めてきました。

今年五月の北薩大会で郡山司教様から十五人の宣教奉仕者を任命していただきました。しかし宣教奉仕のセンスを深めていくためには永山神父様も言われていますが、五回の講座だけでは不十分で、更なる信仰のセンスを養い、深める必要があります。

北薩地区司祭団では現在出版されている信徒養成の書籍の中から以下の書籍をテキストとし、講座を継続していくことにしました。『共に歩む旅』(オズワルド・

ハーマー著 深堀純訳 サンパウロ二〇〇六・三十九初版発行)。南アフリカ共和国のルムコ研究所から出されたカテキズムのテキストとして出版されたものです。東京教区や横浜教区ではグリフィン神父様(コロンバン会)が信徒の担当する「信仰入門講座」の養成を一九七〇年代からされており、信徒養成が早くから行われ、養成を受けた多くの信徒が信仰のセンスを伝える信徒宣教師として各小教区の「入門講座」において活躍してきました。年間、百人の洗礼が行われる高輪教会でもこの養成が行われていたことによるものが多いのです。大阪教区でも信徒使徒職を様々な分野で推進すべきことが神戸大震災後の教区

の基本方針「新生の明日を求めて」の中で明記され、信徒も「信仰入門講座」を担当するようになりつつあります。

昨年出版されたこの『共に歩む旅』は日本の社会的な状況とは大きな違いがあることも事実です。例えば、長い期間、人種隔離政策が行われていたアフリカの個別事情が度々日本の社会的背景と大きく異なり、そのままでは使えないことがあります。そんな時、この書籍を十八年前から自ら翻訳し、使用したおられた中川明神父様(大阪教区)は日本の教会に適応させたテキスト副読本を今年二月に

たときに、皆さんの顔に笑顔があつたことに司祭団としては、暗い夜道に一人不安を感じながら、家路に向かつて歩いていると玄關の明かりが見えたようなほっとした気持ちです。以下に内容のポイントを紹介させていただきます。

北薩地区宣教奉仕者養成講座

出水教会主任司祭 大松正弘

大阪教区から出版されました。

テキスト選択の過程は上述の通りです。九月十六日(日)午後二時から出水教会でこのテキストを用いた第一回目の講座が行われました。

基本的には分かち合いが主たる流れです。ある例題に対して自分の信仰生活の中でどう感じたか、どうすれば、より福音的に生きる

ことができるのかを聖書に立ち返りながら、新たな信仰の旅を続けていくという流れです。二十八人の方が不安の中であまり慣れてはいらっしゃらない「分かち合い」を楽しく過ごしてくださったようです。終了し

ないようにならうと努力しました。他人を傷つけてしまうことを言ったりしたときに赦しを願ったこともありました。他の人との関係を取り戻したいという強い望みもありました。しかし事態は悪くなるばかりでした。最後には周りの人たちは彼を避けるようになり、そしてこう言っていました。「トムはどうしようもない男だ。彼のことはもう無視しよう」と。

・参加者を温かく迎える  
・主をお招きするための祈り  
・今日の講座の流れを説明  
・分かち合いのルールについて

・トムの体験を朗読(ゆつ

くりと間をおいて二回読まれます)

『トムは中年の農夫です。結婚して子供が四人います。トムは家族のため、その生活を支えるためにがんばっています。苦

労は尽きません。トムには大きな欠点があります。自分の気持ちをコントロールできないのです。これまで何度も妻とけんかをし、言い争いをしました。小さなことなのにすごい剣幕で怒ります。隣人や友人とも同じようにけんかをします。友人たちが自分よりう

まくやっているのを見ると激しい嫉妬心に駆られるのです。トムはそのような気持ち

を改め、嫉妬心を抱か

合いと報告しながら進んでいきます。

I 私たちの間で、例えば家族や友人たちの間でどのようないさかい、衝突がありますか?その理由は何でしょうか?

II 周囲の人にトムのよう

な人がいましたか、いますか?あなた自身はどうでしょうか?

III 人々がトムを避け始めたとき、トムはどのよう

に感じたと思いますか?同じような体験がありますか?

IV あなたの生活のどこ

に神の導きの手があるのでしょうか?神が守り、導いて下さった体験があれば分かち合ってください。

+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang Pandamang antas natural ng Pananampalataya"

Ano ang nagiging epekto ng Turo ng Simbahan sa pamumuhay ng isang taong binyag o nanampalataya? Ang sagot ay, "ang lahat ng mga tapat o nanampalataya ay nakikibahagi sa pagkakaunawaan at ibinibigay ang kapahayagan ng katotohanan. Tinanggap nila ang paglalahid ng Banal na Espiritu, na siyang nagtuturo at gumagabay sa kanila sa lahat ng katotohanan.

Ang buong katawan ng mga nanampalataya... ay hindi pwedeng magkamali sa bagay ng paniniwala. Ang katangian ito ay pinapakita sa antas natural ng pagpapahalaga ng pananampalataya (sensus fidei) sa parte ng buong katauhan, kailan, "mula sa obispo hanggang sa pinakahuling nanampalataya", nagpapaki lala sila ng pandaigdigang pagpayag sa bagay na pananampalataya at aral.

Sa pagpapahalaga nitong pananampalataya, ginigising at inialalayan ng Espiritu ng katotohanan, ang Sambayanan ng Diyos, ginagabayan ng banal na pagtuturo na may kapangyarihan (Magisterium)... tinatanggap... ang pananampalataya, na ipinaabot din sa lahat ng mga banal... Ang Tao ay nakakapit na hindi nabibigong dito sa pananampalataya, mas lalong napapalalim ang tamang paghuhusga at mas pinaiigi sa buhay araw-araw".

Ang bunga nito ay ang pag-unlad ng pagkakaunawa ng pananampalataya. Salamat sa tulong ng Banal na Espiritu, sa pagkakaunawaan ng kapwa katotohanan at nagiging buhay sa pamumuhay ng Simbahan.

Kung kaya ito'y maliwanag na maliwang, dahil sa kat-aas-taasang karunungan ng pagkakaayos ng Diyos, ang banal na Tradisyon, Banal na Kasulatan at ang Turo ng Simbahan ay magkadugtong-dugtong at nagkakaisa, di pwedeng tumayong mag-isa ang isa sa kanila kung wala ang iba. Magkasamang nagtatrabaho ang bawat isa, pero kanya-kanyang sariling daan. Sa pamamagitan ng isang galaw ng isang Banal na Espiritu, silang lahat ay nag-aambagan na may bisa para sa kaligtasan ng mga kaluluwa."

トムの気持ちになつて詩編一三九を読んでみましょう。

詩編一三九を各自静かに味わう。神が私のすべてを知つて下さり、歩むべき道を教えて下さる。そのことを確認する。

V リーダーによるまとめ内容についての質問やコメントが出され長くなることもあり。 (十

五分) VI 祈り 自分を神の前に置き、振り返る (十

五分) VII 主の祈り

なお、次回は十月二十一日(日)午後二時から入来教会で行われます。どなたでも、そして一人でも多く参加して下さい。ようこそ案内いたします。

司教執務室 便り

私たちのフェスタ

九月十七日の教区フェスタは、教区の様子が一挙に公開された感じで壮観だった。まず、披露されたミサ中の宣教師体験談。四人の皆さんの共通の気づきは、「私は今まで信者として何をやってきたんだ」ということではなかったかと思う。それぞれ印象に残ったが、石田さんの体験をもとに書いてみたい。

九月十七日の教区フェスタは、教区の様子が一挙に公開された感じで壮観だった。まず、披露されたミサ中の宣教師体験談。四人の皆さんの共通の気づきは、「私は今まで信者として何をやってきたんだ」ということではなかったかと思う。それぞれ印象に残ったが、石田さんの体験をもとに書いてみたい。

故人を捨てて小さな島に六人もの子ども達と共にやってきた宣教師家族。主のために、愛のために、隣人のために、捨てる、手放す、放棄する。難しい作業だが、自分なりに思いをめぐらすと自分なりの「捨てる」行為が見つかると気がする。そして、身軽になつても

と信者らしく生きていけようである。人とのより良い関わりを妨げている自分のありのままの姿に気づくのは容易ではないが、みんな



殉教者レオ七右衛門との関わりが始まった二十数年前。強烈に問われた自らの信仰の質。名誉も捨て、命も捨て、家族までも捨てた殉教者。「主のために私は何を捨てる

# 駐日教皇大使が教区訪問

## 十一月二十五日から二十七日まで

十一月下旬に駐日教皇大使アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ大司教が鹿児島教区を公式訪問することになった。

訪問の目的は「司牧訪問」で、大使としての教ある任務の内「使徒座(バチカン)と部分教会(教区)との間に一致の絆を絶えずよりいっそう堅固、かつ効果的にするために、部分教会の置かれている状況、並びに教会生活及び霊的善益に関するすべてのことについて使徒座に報告する」(カトリック新教会法典第

- ・三五四条一項 参照)に該当する。大使の鹿児島滞在中のスケジュールは次の通り。
  - 二十五日(日)
    - ・午後三時三十分 鹿児島カテドラルザビエル教会でのミサ
    - ・午後六時 歓迎夕食会(城山観光ホテル)
  - 二十六日(月)
    - ・ザビエル上陸記念碑等視察(午後、奄美大島に向かう)
    - ・午後二時半頃から瀬留大熊、浦上、聖心教会を訪問
  - 午後五時 聖心教会でのミサ
  - ・午後六時半 歓迎会(サンブラザ・ホテル)
  - 二十七日(火)
    - ・午前八時 和光園、希望の星学園等の訪問
    - ・午前十一時三十五分の便で帰京、となっている。
- なお、実行委員会では大使司式ミサはもちろん鹿児島での歓迎夕食会(会費制)にできるだけ多くの人の参加を呼びかけることにしている。

二年前に新しい教皇がベネディクトを名乗るまで聖ベネディクトは多くの日本人になじみの薄い聖人だったかもしれない。実は最近、教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的書簡「聖人たちの養い手」という本が翻訳・出版されました(教友社・二〇〇七年三月)。

これは、前教皇が一九八〇年に聖ベネディクトの生誕千五百年を記念して発布したのですが、その目的は、五世紀の後半に生きた聖ベネディクトの過去の功績を称えるためではなく、聖ベネディクトは二十世紀後半を生きたキリスト信者にとつて、範疇(はんちゆう)とすべき聖人であるとの教皇さまの静かな主張にあります。聖人は周知のように、西欧において隠世修

### ＝新風＝

## 「聖ベネディクト」のこと

道院生活の規律を完成し、その実践によつてキリストの福音に根ざしたヨーロッパ再生を醸成した人です。キリスト教の普及により、いわばヨーロッパ共同体が形成されたといえますが、聖人はその魂を養成したという点で「ヨーロッパの父」

と称えられるのは故なきことではありません。さて、現代の日本人にも有益と思われる考え方をみてみましょう。

①神の探求。人間は、人を虚栄や傲慢に引きずり込んだり、また、気力をそいでしまう恐怖の中に突き落とす無軌道な欲情のとりこ



## 「病気になるっても病人にはなるな」

臨床パストラルケア教育センター所長のW・キップス神父(レデンブートル会)が、この夏新たに本を出した。「病



気になっても病人にはなるな」との強烈なタイトルを掲げた同書は、神父自らの闘病・手術、そして医療を施す者見守るものと、そして何よりも患者自らの病気の向き合い方が記されている。(発行 協業組合ユニカラー 定価八百円)

## 戦後の初ミサを記念

### 古田町教会

九月十五日(土)奄美市の古田町教会で戦後初の公式ミサがささげられて六十年を記念するミサと懇親会

に語りかけています。この神のことはこそ人間にとつて永遠の新しいさを汲み取る源です。

③労働。祈りと聖書と勤こそ、ベネディクトの示す聖性に到る道です。労苦を伴う労働は祈りとの調和の中でその意味を見出します。労苦は人間を罪から清めるあがないの意味をもっており、創造のわざに参与することに全人格的に進歩し、ついには労働を通して神と一致することができると教えます。

④権威の行使。修道院長と修道士たちの関係は父と子の関係です。天の父とイエスの関係にその範があります。父の子に対する配慮と子の父に対する聴従こそが家族が健全に成長する礎になります。(H・N)



山昭神父担当が八月二十日(月)から二十四日(金)までザビエル教会一階

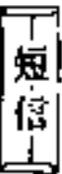
ホールで開かれた。第十六回目となった今年の講座のテーマは「ヨハネ福音書を読む」で、午前と午後の部合わせて約八十人の信者たちが熱心に勉強した。

## ▼東京純心大学「アンゼラ」が鹿児島訪問

九月十一日(火)から十三日(木)まで、東京純心女子大学の信者グループ「アンゼラ」のメンバーが、ザビエルの上陸地鹿児島を訪問した。前川神父率いる一行は、ザビエル教会やザビエル上陸記念碑、キリシタン墓地を巡って研修したほか、知覧の特攻基地、桜島の見学、指宿での砂むし温泉なども体験した。

## ▼九州青年キャンプ

八月二十五日(土)から二十六日(日)まで福岡、長崎、宮崎、鹿児島などからの青年約四十人が南宮崎教会に集まり、信仰を深める集いを持った。



## 「短信」

▼夏期講座終わる  
恒例の夏期集中講座(竹

## デイリーノ神父の英会話教室始まる

「カテドラルに近寄ると危険」それはいきなり英語で話しかけてくるご婦人たちが増えてきたからだ。実はこの現象、ベルナルディーノ神父(ザビエル教会協力司祭・滞日外国人担当)による英会話教室が始まったせいだ。楽しそうな集いだが、あまりのその数の多さには驚き。英語に自信のない方はこの日はザビエル教会に近づかないことをお勧めしたい。危険な日は次の通り。月曜日十三時半から十四時半、火曜日十時から十一時。会費一回二百円。

## 10月

## 今月の暦

- 4日(木) パコ神父霊名(アシジの聖フランシスコ)
- 5日(金) 牧山田一神父叙階記念日(一九六一年)
- ▼デクルス神父命日(一九八〇年)
- 7日(日) 年間第二十七主日
- 8日(月) カトリック女性信徒の会講演会・ザビエル教会、13時30分
- 10日(水) 福岡英雄神父叙階記念日(一九八九年)
- 12日(金) アッシュヤー神父霊名(マックス)
- 14日(日) 年間第二十八主日
- 16日(火) 大松正弘神父霊名(ジエラルド)
- 18日(木) 聖ルカ福音記者
- ▼内野洋平神父霊名
- 21日(日) 年間第二十九主日
- 世界宣教の日(献金)

「世界宣教の日」は、すべての人に宣教の心呼び起こさせること、世界の福音化のために、霊的援助をはじめ宣教者たちの交流を各国の教会間で推進することを目的としています。この日の献金は各国からローマ教皇庁に集められ、世界中の宣教地に援助金として送られます。日本の教会は、いまだに海外から多くの援助を受けていますが、経済的に恵まれない国々の宣教活動をさらに支援できるように成長していきたいものです。

- 22日(月) 司祭評議会・教区本部・10時
- ▼教区司祭会・教区本部・16時
- 23日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 24日(水) 大水如安神父命日(一九九四年)
- 25日(木) 東 研神父叙階記念日(一九六四年)
- 27日(土) 連合壮年会懇話会・マリア山荘・28日まで
- 28日(日) 年間第三十主日
- ▼溝辺教会堅信・9時30分
- 31日(水) ミタマヤ神父命日(一九八四年)

## 第49回カトリック看護協会全国大会

―大会二日目(11月10日)の会員発表案内―

- ①重度障害者への看護援助と社会支援
  - ②いのちへの思いやりのケア
  - ③人生を統合される主を讃えて
- 会員以外の方の参加は一日目の参加費五千円(親睦会費含む)、二日目の参加費三千円(昼食代含む)。教区報九月号でお知らせした講演や会員発表のみの参加費は一日五百円。問合せは純心大学 平まで(☎〇九九六―三三―五三二一) Sr.高

# 奄美宣教の始期に関して

谷山教会 東 健一郎

『カトリック奄美100年』(一九九一年)は宣教師をフランス宣教師フェリエ師が来島した一八九一年(明治二十四年)をもって始め、フェリエ師来島前のカトリック熱の高まりも収めた貴重な記念誌である。フェリエ師は奄美市名瀬に着くと即日宗教講演をするが、一旦長崎に戻り、翌年正式に赴任し、宣教の傍ら採集人を養成して昆虫及び植物を採集、フランスへ送った。

しかし、フェリエ師は初めて来島した宣教師ではなく、フランス宣教師の来島はフェリエ師より少なくとも四年遡ることが出来る。戦前の動植物学者の機関誌『植物及動物』に世界的に著名な昆虫学者・江崎悌三氏の「奄美大島の概観」なる論文が連載され、最終回に「奄美群島動物調査略年表」を付し、次の記事がある。

「一八八七(明治二〇)年一〇月、フランス宣教師 Urban Jean Faure 来り植物を採集す。彼は他の地については昆虫を採集せしことあるも奄美大島にて採集せしや否や不明なり。」

その四年後にフェリエ師について略記している。フェリエ師は「台湾に於ける SAUER、支那に於ける DAVID」にも比すべき昆虫及び植物採集家であったため、昆虫学上の貢献に多くの紙幅を充て、宣教活動にも触れている。奄美調査旅行後、熊本のカトリックのフェリエ師にお墓に参り、先覚に敬意をささげている。

但し、この論文にフェリエ師の宣教の記録はない。『奄美宣教百周年記念資

**「講演会」のお知らせ**  
鹿兒島カトリック女性信徒の会

演題 家庭—愛といのちのきずな—  
講師 川添 猛神父様(熊本・帯山教会主任)  
日時 十月八日(月) 講演 十三時三十分  
ミサ 十五時四十分  
場所 ザビエル教会

料誌』の編集者はフランス布教団の奄美大島布教状況について次のように記している。

「この書簡はフランス布教団がカナダ布教団と交替後、オーグスチノ・ハルブ師により大島へ知らされた唯一のカトリック布教史で、他の記録は戦災により消失した。」

ハルブ師はフェリエ師に二年遅れて来島した宣教師である。

奄美の風土について若干の例を挙げる。

一八八〇年(明治十三年)

## 文芸

### 俳句 (思川俳句会作品)

#### 市来房枝選

阿久根 中津濱フサエ  
夕風に心はずまずロザリオよ  
(評) ロザリオの祈りの中でマリア様の心も弾んでいると思う。

出水 沖 弘子

かなかなの一頻り鳴く朝の市の市「がきつちり受け止めていて季節感が旨く表出された。」

純心学園 山頭 信子

ひまわりの畑続きしノルマンディみそはぎやセーヌ川岸むらさきに(評) セーヌ川にみそはぎが咲いているとは、よく観察された一句

出水 遠竹 睦郎

人影と紛ふが如き案山子かな  
純心学園 川上 和  
鈴虫の声澄みとほり月冴ゆる

鹿兒島 本城 愛

競い合う花火師描く五尺玉

鹿兒島 徳永ノブ子

ミサ捧ぐ祈りに応え蟬の声

鹿兒島 龍門司真人

現身を証す夕べの祈りかな

### 短歌 (思川短歌会作品)

市来房枝選

純心学園 川上 和

しののめに清しくひびくアンジェラスきよう一日の平和祈らむ

(評) 「しののめ」は「明け方」。明け方のアンジェラスの鐘が祈りを誘う。

大口 森 博伸

背伸びせし思ひが見ゆる若き日の古びし聖書のの書き込み

(評) 世界聖書展を見に行った時、三浦綾子さんの聖書は赤ペンで埋め尽くされていた。その時の感動が蘇ってくるような一首

出水 遠竹 睦郎

鶴の来る出水の里に学びたる友ら集ひて古稀を寿ぐ

(評) 長命の鶴にあやかり、益々の健勝を祈ります。全体にすっきりと纏めてある佳作

鹿兒島 春山マリ子

折りをりに空しく思ふ日のあれど返らぬ今日を生き堪へてゆく

鹿兒島 前田 儀子

アヴェマリア奏でる吾のオルゴール今宵も振子を巻きつつ聞きぬ

阿久根 中津濱フサエ

神さまの授け給ひし馨しさ捧げて咲きぬ紅のバラ

鹿兒島 田平新太郎

公園に憩ふ少女に手話一言笑みかけられて愛しく覚ゆ

若き日に吾を愛洗に導きし二人の七田神父を思ふ

選者詠

鹿兒島 田平新太郎

八月、幸町に新聖堂が落成するまで続いていました。

## 終戦後の奄美を振り返る

大熊小教区 平 三國

年、魚類調査のため来島したドイツ動物学者・ルードウィッヒ・ドエーデルラインは奄美の共通祝歌を珍重し Die Linku Isei Amami Oshimai なる論文で紹介している。

一九三二年(昭和六年)、奄美市名瀬に、翌年、同市小宿に「愛児園」を創立したガブリエル・デュセネ師は方言を通して奄美の風土を理解し、「借り入れは多いが働く人は少ない」(ルカ10・2)と記した書簡を送っている。

一九五七年(昭和三十三年)、瀬戸内町西阿室では

ゼロム・ルカゼウスキ師らにより八十八人が集団受洗した。思うに奄美には政治的圧迫がなければ伝統的にカトリックを受容する風土があったのではないか。

フェリエ師来島前のカトリック熱にフェリエ師の影響の可能性は否定しがた

因みにフェリエ師の日本派遣は一八八〇年(明治十三年)で、長崎の布教本部到着はその翌年である。またフェリエ師とフェリエ師には昆虫及び植物採集家、フランス宣教師という共通項がある。

## 奄美大島では、軍部の迫害によって一九三四年(昭和九年)から司祭不在が十三年間続きました。終戦から二年後の一九四七年(昭和二十二年)九月十四日、アメリカのカプチン会宣教師のフェリックス・レイ神父とオーバン・バルトルダス神父が奄美大島に来島されて、迫害と戦後の教会復興が始まりました。

戦前はカトリック教会のことを天主教教会と言っていました。それで入口の扉には「財団法人奄美天主教教会(事務所)」との表札を掲げてありました。ここが教区報の今年の三月号に載った「戦後初の仮聖堂の地に記念碑」の場所です。「奄美の信仰の基礎を築いてくれた先達の心を何とか形に留めておきたいと願った」池田哲弥(池田嘉次郎氏の孫)さんが完成させたものです。

その仮聖堂でミサがさざげられ、他の秘跡が授けられ、信徒の信仰生活が向上、発展し、仮事務所では教会財産(迫害と戦争で建物はほとんど焼かれ、破壊され、政府に没収されていました)を合法的手続きで

回収したり、各地の聖堂を建設していったのです。

仮聖堂でのミサでは、室内に入りきれない信徒は軒の外から道路まで並んであざかっていました。当時は自動車がごく少なかったので集団の写真は、仮教会の前の道路で撮影していました。島内各地から集まった約四十人の信徒代表会議や、約四十人の戦後初めての初聖体の集団写真などです。戦後あらゆる物に貧しかった時代に教会行事の写真が撮影されたのには、写真館を経営した信徒がいたからだと思えます。

## 黙想会のお知らせ

鹿兒島カトリック連合壮年会

テーマ 壮年信徒の教会との関わり

指導 郡山健次郎司教

日時 10月27日(土)〜28日(二泊二日)

場所 マリア山荘

会費 三千五百円(食事代込み)